

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「モスフードサービス、職場で子ども参観日」
- 2) 「外国人向け“居酒屋ツアー”サービス本格化」
- 3) 「梅田で“かくれ脱水”対策啓発イベント」

1) 「モスフードサービス、職場で子ども参観日」

モスフードサービスは8月8日、本社勤務社員の子どもの対象に「子ども参観日」を実施する。初めて実施するもので、来年度以降も継続開催を目指す取り組み。子どもたちの夏休みに合わせて開催をし、普段見ることのできない親の働く姿や、職場の雰囲気を見学する。

「当日、子どもたちは、お父さんやお母さんの同僚と名刺交換をしながら自己紹介をし、日頃親の職場に抱いている興味や疑問などをインタビューするなど、会社をもっと身近に感じてもらい、親子のコミュニケーションの機会にもつなげたい」と同社。ワーク・ライフ・バランスのひとつとして社員家族の仕事に対する理解を深め、仕事と子育ての両立に寄与し、働きやすい環境整備の一助し、社員の家庭内でのコミュニケーションを広げ、活力向上を図る取り組みという。

普段は見ることのない親の一面を見ることで、子供の親に対する気持ちにも変化が生まれるだろうし、反対に親も責任感が増すと思うので良いスパイラルを生む取り組みだと思う。また家庭内だけでなく社内での家族交流にもつながり、みんなで協力してワーク・ライフ・バランスを保てる企業づくりにもつながりそうだ。

2) 「外国人向け“居酒屋ツアー”サービス本格化」

居酒屋チェーンが外国人ツアー客をターゲットにしたサービスを本格化している。外国語のメニューを作成したり、日中営業で特別ランチを提供したりと受け入れ態勢を強化。団体客が入れる広い店構えや、安価でさまざまなメニューを楽しめる居酒屋らしさが受け、客数はうなぎのぼりとか。少子高齢化で先細りが懸念される外食産業の新たな収益源になりつつある。

居酒屋チェーンのコロナイドは昨年10月、外国人ツアー客専門の営業部署「営業外商部」を新設。今年6月に人員を倍増し、海外の旅行代理店に居酒屋チェーンを活用してもらうツアープランを提案している。

コロナイドの居酒屋は通常、夜間営業のみだが、外国人ツアー客が来る日は特別に日中営業し、しゃぶしゃぶの食べ放題や海鮮鍋コースなど専用メニューを提供する。1人約2000円と手頃な価格も人気で、6月までに月間の外国人来店客数は営業外商部設置前の約5倍にあたる1万人に急増した。

同部の玉井正明次長は「訪日目的の上位は『食』。大勢のツアー客が入れる日本の居酒屋チェーンが注目されている」と分析する。居酒屋の利用客は年末年始や週末に偏るが、「平日需要の拡大や日中の店舗の有効活用もできて“一石三鳥”だ」と強調。今後は外国人スタッフやサービスの拡充を進め、外国人の集客上積みを狙う。

ワタミも対応を急ぐ。今年4月には現地旅行代理店と協力して台湾企業の社員旅行の誘致を図り、約2000人の来店につなげた。外国人客の多い約80店で中国版デビットカード「銀聯カード」の利用を可能にしているほか、全店に英語と中国語の対応メニューを置くなどサービスを強化した。今後は台湾や香港に設けた店舗と連携し、日本の店にも行きたくなるような仕掛けも考えているという。

日本人にとっては普段の生活に馴染んでいる居酒屋も、視点を変えればとても日本的な文化が見られる場所だ。広い・安い・日本らしいの3つを兼ね備えた店は外国人にとって手軽に日本流を楽しめると思うし、店にとってもランチ営業をするよりもメリットがあるだろう。飲酒運転罰則強化やよく言われる若者の酒離れなど居酒屋には厳しい面も多いと思うが、この件に限らずアイデア次第でいろんなことができそうだと思う。

3) 「梅田で“かくれ脱水”対策啓発イベント」

ディアモール大阪内イベントスペース「ディーススクエア」で7月25日、熱中症対策啓発イベントが開催された。

記録的猛暑で熱中症による死者が1718人に上った2010年。それまで屋内では熱中症にならないと思われていたが、実際には「屋内」で「高齢者」が発症し救急搬送されるケースが多く、梅雨明けが早かった今年も厳しい暑さが続く見込みだ。

進行するまで症状が出にくい脱水症の深刻化する手前の状態を「かくれ脱水」と位置付け、熱中症や脱水症の仕組みや予防・対策について啓発活動を行う同イベント。会場では、「働く人」「高齢者」「学生」それぞれに向けたタブロイド版のPR紙「かくれ脱水JOURNAL」と「かくれ脱水チェックシート」、経口補水液「OS-1」を配布した。登壇した「教えて！『かくれ脱水』委員会」の服部益治委員長は「かくれ脱水」の症状を「ベタ」「ダル」「フラ」「イタ」と覚えてほしいと呼び掛け、首筋などがベタつく、ダルさを感じられる、めまいや立ちくらみでフラフラする、足がつったり頭痛がしたりするなどが脱水症状のサインと解説した。

服部委員長は「日頃から少し気を付けているだけで死亡には至りにくい。朝起きてすぐ水分を摂ること、2時間おきには水分を摂ること」と、こまめな水分補給を第一に挙げる。「ナトリウム、カリウム、それらの吸収を速めるブドウ糖が配合された経口補水液は体から失われた水分と塩分を補うもので、朝は水でも良いが、軽度から中度の脱水症状が見られる場合は経口補水液を摂取するのが適している」と話す。

日常生活では、「朝ごはんを食べない人が多いが、おかゆと梅干し、みそ汁で塩分も糖分も摂れる。昔の人は夏には麦茶をよく飲んでしたが、最近では緑茶やコーヒーなど利尿作用のあるカフェインが含まれた飲料を摂る人が多く脱水を起こしやすい。ビールは飲んだ量の1.2-1.3倍が出るので、ビールばかり飲んでいると脱水症を起こす」と注意を促す。

気温、湿度ともに高い大阪府は、今年5月27日-7月7日の暫定値で熱中症による救急搬送者数が都道府県別で最多。「大丈夫と思っている人も多いと思うが、用心して悪いことはないので心掛けていただきたい」と呼び掛ける。

ニュースなどのメディアで熱中症については大きく取り上げられることが多くなり、ある程度の知識は広がっていると思う。だが、しっかりした情報を得てない状態で「この時間は大丈夫」とか「こんな場所では発症しないだろう」と中途半端な知識量で油断してしまう事もあるかもしれない。こういったキャンペーンで、正しい知識を付けて対策を怠らないようにしたい。